



認定特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて
ニュースレター第 28 号 2017.7.11

第 14 回通常総会・アース王子まつり開催される

平成 29 年 6 月 17 日（土）アイーナ 4F アイーナスタジオにて認定特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて第 14 回通常総会が開催されました。この日は 6 月の環境月間に合わせ、いわての環境をよりよいものとし次世代に贈ることを目的とした第 3 回アース王子まつりが同時開催されました。サステナビリティセミナー2017（講演会）ならびに未就学児童を対象とする次世代環境教育用電気自動車 PIUS の組み立て体験、壊れたおもちゃをおもちゃドクターが無料で修理するおもちゃの病院、子どもたちを対象としたあそびの広場、アイーナスタンプラリーなどが開催されました。第 14 回通常総会には 22 名の会員（委任状提出 44 名）が集い、平成 28 年度の事業報告、会計報告、平成 29 年度事業計画（案）、予算（案）、定款変更（案）が承認されました。

総会開催挨拶 野澤日出夫代表理事

お忙しい中を皆さま方には県内各地からご出席いただきまして有難うございます。

また、本日は県委託事業の所管でありま

す、岩手県環境生活部・津軽石昭彦部長の代理として黒田農企画課長にご来賓としてご列席頂いております。お休みの中を有難うございました。

私からの挨拶は総会資料冒頭に掲載させて頂いて居りますが、ご承知の様に、COP21 パリ協定は将来の地球温暖化に対する世界的な危機意識の中で素早く発効し、環境先進国に於いては着々と戦略的な対策が進められています。

一方日本やアメリカに於いては、自国の経済発展が優先政策となっていて、環境政策は戦略的でなく、国民はいわば「茹（ゆ）でガエル」状態に置かれているのが現状であります。私たちの NPO は昨年念願の「認定 NPO 法人」として認可されました。

また県の委託を受けた「環境学習交流センター」活動も、10 年の区切りを過ぎ、世界的な変化が激しくなっている中で、MG 委員会（Management & Governance Committee）を設置しこれからの活動の取り組み方を大きな課題と考えています。また県当局からも今後の取り組みやセンター展示などについての新たな提案を求められ

ています。今まで積み上げて来た私たちの経験から、会員・理事・スタッフや外部の次世代を担う若者たちの知恵を集めて、

「環境王国いわて」において「心地よく豊かに生き延びるために・・・」県当局とも連携して本年度中には進むべき方向とセンター展示につきましても結論をまとめ、バックカastingで今後の県民のための活動を進めたいと思っています。

本日は環境月間の中日(なかび)に、「環境王国の王子・アース王子まつり」として開催させて頂きました。新年度の活動におきましても、関わる多方面の皆さま方や当方スタッフを含めて安全・安心を第一として取り組みますが、会員の皆さまの倍旧のご理解・ご協力をお願い致します。

本日の総会に於いては忌憚のないご意見を頂き、今後の新たな活動に活かして参りたいと思っています。宜しくお願い致します。

サステナビリティセミナー2017

(市民公開講座として開催)

講師：一般社団法人コクリエーション・デザイン 代表理事 平田 裕之 氏

演題：「脱炭素＝豊かな地域づくりと環境パートナーシップの今後」



講師の平田氏が巨樹を描く旅で仕上げた3作品

世界を旅してきた平田氏が南太平洋の島キリバスで見たのは温暖化の影響によりあと34年で島が沈むという警告よりも人口爆発と貧困による衛生問題、水問題、調理に使うエネルギーの不足、野菜が育た

ない、未実施の環境教育などの喫緊の現実であった。解決は簡単ではないが、エネルギー問題の一助としてシンプルな構造をもつロケットストーブの実用例を紹介。容易に調達できるヤシ殻を燃料に燃料効率をUPさせた。複雑な機械ではなく誰にでもすぐ利用できる便利さが重宝されている。

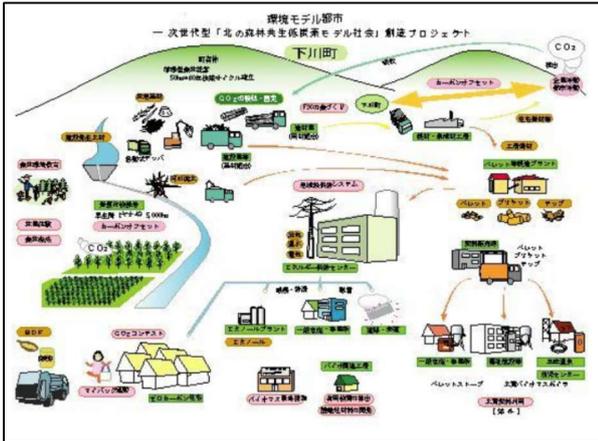


ヤシ殻と平田氏紹介のロケットストーブ



平田氏はこれまで低炭素杯の審査員を務めてきた。近年グランプリを授賞した3例を紹介。2014年の北海道下川町の例は「森林を活用するエネルギー自給型小規模自治体モデル」(森林経営システム・バイオマスボイラー・森林認証・トドマツ精油商品化・木質燃料転換によるコスト削減分を子育て支援に配分)である。2016年のしずおか未来エネルギー(株)では「静岡発!!みんなで創る地域発電所」(5人の勉強会からスタート・全国初の小口市民ファンド・市民が集まる象徴的な市有施設に太陽光発電の設置・啓発イベントなどの環境教育の実施)、2017年の佐賀市上下水

道局下水プロジェクト推進部は「昔に変える未来型～下水処理場を宝を生む施設に～」(下水汚泥の堆肥化・宝の肥料・2,400人に肥料の配布と啓発・農産物のブランド化・汚泥発電4割自給・ミドリムシ培養による燃料創出)を紹介。最近の低炭素杯は理念の発表から、具体的な実用例にシフトしていることを紹介しました。



森林を活用するエネルギー自給型小規模自治体モデル



静岡発!!みんなで創る地域発電所



昔に変える未来型～下水処理場を宝を生む施設に～

講師の平田氏はひとつの組織、個人では解決できない問題(少子高齢化社会への対応・認知症患者の増加とそのケア・地域の仕事づくり・地球温暖化・海岸漂着ごみ・過疎化の進行など)が増えているとし、行政、企業、NPO 単独では解決できず「協働」の発想が必要であること強調、発想の原点は既存の概念にとらわれないことで、一例としてご自身が東京足立区に作られた畑のついたアパートを紹介。都会に畑のある暮らしを作ると住む人の暮らしはどう変わるのか?(畑と台所を結び生ゴミの削減と食料の自給)アパートの片隅にぶどう棚を設置し住民の憩いの場とすることで住まい手がどう変化するか?ゴーヤ 300本がとれるアパートにすると住まい手の暮らしはどうか?などの実験例を示されました。



アパート脇のぶどう棚

平田氏はグループワークのファシリテーターとしても活躍しており、この日も参加者を対象に「ちょっと体験・協働での脱炭素アクションアイデア出し」の模擬指導を実施。配布の用紙にアイデアを書き出す場面（巻頭写真）では、短い時間ではありましたが、参加者が自分の考えを書き互いに意見を交換しました。

最後に平田氏は豊かな地域を作るための組織をつなぐコーディネーターの役割として、一人のすぐれたスーパーマンではなく複数のちょっと組織からはみ出た人たちのつながりが大事であることを、結びの言葉としました。

ちょっと体験・協働での脱炭素アクションアイデア出し	
①私の関心	④環境課題
・	<input type="checkbox"/> 低炭素
・	<input type="checkbox"/> 生物多様性
・	<input type="checkbox"/> 資源循環・リサイクル
②岩手の特徴(良いところ)	脱炭素アクションアイデア
・	・
・	・
③岩手の課題	・
・	・
・	

平田氏略歴 2009年立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 修士課程修了（研究テーマ CSR）大学在学中、アメリカの環境 NPO に所属したことをきっかけに、非営利セクターの取組に興味を持つ。足立区 NPO 活動支援センター・地球環境パートナーシッププラザ統括を務めた後、2017年にコクリデザインを設立。ワークショップの企画・プロジェクト評価、畑付きの賃貸アパートの経営を行う。著書に『畑のついてるエコアパートをつくらう』（自然食通信社）がある。

6月の環境月間にちなみ 環境ポスター展を開催

環境の日は1972年6月5日にストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念し定められました。国連は日本の提案によりこの日を「世界環境デー」に定め

ています。環境庁の主唱により平成3年から6月が「環境月間」となりました。しかし環境月間は県民の間にあまり知られていません。総会、アース王子まつりの開催に合わせ6月一杯の環境ポスター展を環境学習交流センターで開催し、会員や環境保全団体に呼びかけ、各団体の活動内容を紹介しました。



過去2回のアース王子まつりでは、1日だけの環境ポスター展でした。今回は展示期間を1カ月としたため環境学習交流センター来場者の目に触れる機会が多い結果となりました。環境ポスター展に出展したのは「県都の環境を守る様々な活動・盛岡市の取組」（盛岡市環境企画課）、「カーボンオフセットと森林」（三田農林株式会社）、「カーボンオフセットカード」（岩手デザイナー協会）、「一関なのはなソーラー発電所」（一関市民パワー発電所事業化検討委員会）、「アイーナ夜学」（アイーナ夜学主催者）の5団体です。この中で三田農林のカーボンオフセットは車のCO₂、工事現場のCO₂、イベント来場者のCO₂、印刷物のCO₂など事業運営に伴い発生するCO₂を排出権により削減します。環境省のオフセット・クレジット（J-VER）制度によりカーボンオフセットが行われ、環境省の口座に無効化記録が残ります。岩手の森林を育てCO₂の削減を果たすこの制度をぜひご活用ください。

STEM 教育に対する取組 平成 28 年度事業報告から

総会での平成 28 年度事業報告は、環境パートナーシップいわてが取り組んできた活動を 4 つの分野にし総括を行いました。「つながりと拡がり」を活動理念の根底に置き、①生物多様性の取組②人の復興の取組③STEM 教育の取組④安全教育的取組の 4 分野で事業をまとめました。



2016 年アース王子まつりの PIUS 組立体験

特に STEM 教育の分野の取組を紹介します。STEM とは Science, Technology, Engineering and Mathematics の頭文字です。科学、工学、技術、数学の教育分野の総称です。近年、日本の学校教育では、この分野が欧米に比べ大きく遅れた状態であることが指摘されています。中学、高校教育の中で現在多用される科学、工学、技術分野について生徒らが目にし、手で触れる授業がほとんどないことが原因です。学校のカリキュラムの中にこの分野を取り入れることは、具体的に教える技術者がいない、予算がないなどの理由から立ち後れる結果となりました。このままでは日本の科学、工学技術を支える人材を育成することができません。理工科系志望の学生が減少しているのも、こうした背景があるとも

いわれています。環境パートナーシップいわてでは、補助事業を活用し、中学生、高校生を対象に(時には幼児に対するものも含め)この分野での啓発事業を実施してきました。一例として次世代環境教育電気自動車 PIUS 組立体験授業があります。電気自動車を構成する各部品が地球温暖化防止とどう関連するかを専門家が教え、その後組立実技に入ります。大学生が高校生に教え、次に高校生が中学生に教えます。教えることが最高の学びであることを大学生、高校生が実体験しています。PIUS のような教材が学校現場に登場する機会はあまりなく、この授業は学校から大歓迎されています。



野田村・野田中学校で実施された高校生が中学生に教える PIUS 組立体験授業



サイエンスの楽しさを子どもたちに伝える「ローソクの科学」の実践授業

大船渡市内の学童保育クラブに集う子どもたちを対象に行われるサイエンスの実践授業「新ローソクの科学」は岩手大学理工学部の教員が講師となり子どもたちに科学の楽しさを教えています。28年度はうみねこ学童クラブ他2箇所で開催されました。



子どもたちが驚く実験を繰り広げる大学教員

液体窒素を用い柔らかい物質（花びら、駄菓子など）がたちまち凍りつき堅いものに変化するようすやペットボトルを用い簡単な工作を行い、これによる静電気の不思議さの体験。ダンボール空気砲により、流体（空気）の伝導を確認するなどの授業に子どもたちは目を輝かせます。



子どもたちを対象に行うこうした科学教育は出かけるスタッフにとっても、子どもたちの喜ぶ姿がすぐ目に出来るだけに大きな励みとなっています。時には子どもたちから、こうしたらどうなるの？などの「指摘」もあり。子どもたちの感性の鋭さや思考の柔軟性におもわずハッ！とさせられています。体験をともなう科学教育（STEM教育）が子どもたちを育てていることを感じる瞬間です。



STEM 教育から実践工学へ 野田村自然エネルギー寺子屋 開催される

野田村で市民共同発電所を立ち上げた「だらすこ工房」が中心となり自然エネルギーの環を拡げるためさまざまな方法論を学ぶ野田村自然エネルギー寺子屋が 6 月 9 日～11 日に開催されました。だらすこを応援する地元住民、県内、首都圏などから参加者 30 名余りが集合しました。まず始めに NPO 法人太陽光発電所ネットワーク代表理事の都筑建氏の講演「エネルギーデモクラシー」では、・あなたにとってエネルギーとは何？・（全て）電力化するのは効率が悪い・電力市場は「独占」から「自由市場へ」・消費者自身が発電することもできるプロシューマーだ・PV は地域でデザインすることができる。だらすこの活動はそれを考えるきっかけになる・市民共同のコミュニティ発電所も可能、資本主義の米国でも具体事例が出てきているな



どを話されました。意見交換では次のキーワードが話題となりました。・エネルギーデモクラシーとは何か？ エネルギーと人間の活動は今後どのようになるのか？・生命誌の議論のように全体(生態系)と個々(DNA)の双方から考える必要ある・互いの創意工夫が入り込む余地がある・北

欧で主になっている共同組合方式が日本でも広がる可能性は？・進めるためには、皆の合意をとって、皆が納得する必要がある・地産地消の里山資本主義の考え方もある・自分たちが創った電気を自分たちで使えるなら非常に納得・皆に「儲かるのか？」と聞かれる」が、子供たちの将来の安心のために「原子力を置き換えたい」と答えている・「エネルギー」も「デモクラシー」もそれぞれ重要だが色んな意味、色んな観点を含む。二つを掛け合わせた概念は多様で可能性を含むが、人によってとり方が違ってくる。そこをしっかりと議論していく必要がある・新しい気づき、発見を期待して参加した。それが感じられた・どれかに決めるのは難しい。聞けば聞くほど難しい。全否定もできないし考えていかなきゃいけない課題だ・反原発ではなく、脱原発していくためにはどうすれば良いのか？などの意見が交わされました。



議論の合間には発電効率を高めるため市民共同発電所 2 号機周辺の草刈りを実施。参加者が伸びた草の刈り作業を約 1 時間行いました。刈り取った草の搬出は一部しかできませんでしたが刈り取りそのものはきれいに終了。協力支援の気持ちを込めて、この作業を春と秋の寺子屋で定例化することを誓いました。

支援者が奏でるリズムに合わせて「だらすこの歌」が始まると会場は熱気に包まれ、自然素材を使った太陽光バッテリーイル

ミネーションが会場に花を添えました。エクスカーションとして被災地復興状況の見学も行われ、ガイドの説明に参加者は耳を傾けました。がれきは片づき、復興公園も開園間近ですが、まだまだやることは沢山あるとの言葉に一同頷いた次第です。



支援者バンドの演奏・自然エネルギーイルミネーション



被災直後の惨状を説明する地元ガイド

「だらすこ」を応援する多くの人々がこの事業の進捗や課題を確認し、その解決策を探るため開催されたのが今回の野田村自然エネルギー寺子屋です。参加者は3日間の実践的講義などから様々なものを学び、再び今年の秋に開催される野田村自然エネルギー寺子屋に集うことを約束し散会しました。

今後の環ぱい行事予定

1. 落語とライブを聴いたり観たりのお会

日時：7月23日（日）午後1時から

場所：釜石市鶴住居町宝来館

内容：同志社大OB（あやめ家竹笑さん）の落語、千葉和さんのライブ、着物リメイクファッションショー 木戸銭：500円

問い合わせ：坂下洋子 080-3335-1773

2. ビオトープフォーラム in 大槌 2017

日時：8月27日（日）午後1時から

場所：大槌町中央公民館

内容：伝統芸能白澤鹿子踊り、講演：「震災復興と自然の再生・保全による魅力あるコミュニティづくり」鈴木邦雄氏、「大槌町町方に再生した極めて貴重な感受性ミズアオイについて」平塚明氏、「大槌の湧水がもたらす豊かな生態系とその保護について・長年にわたる大槌町の湧水研究から」鷲見哲也氏、パネルディスカッション「町方地区の自然今昔・地域の子供たちにバトンを受け継ぐために」コーディネーター・渋谷晃太郎氏、パネラー白澤良一氏、東梅英夫氏、菊池啓子氏

参加費無料

3. 気仙環境フォーラム

日時：9月17日（日）午後1時から

場所：大船渡市魚市場

内容：講演：朝日田卓氏、望月賢二氏、岩城恭治氏他 参加費無料

編集後記 第28号は第14回通常総会とこの日開催された関連行事の報告を主にしました。総会が終わると夏本番到来です。29年度の事業も佳境を迎えます。会員の皆さまのご理解、ご支援の下に各種事業を進めてまいります。環境パートナーシップいわての活動をより良いものし、県民の皆さまにも賛同いただける活動を展開するため、皆さまからの忌憚のないご意見をお待ちしています。今回は29年度会費3,000円の納入をお願いしています。（総会時、あるいはこれ以前に既に納入された方を除き振込用紙（青色）を入れていきます。また、可能であれば寄付もお願いします。寄付は1口3,000円で振込用紙（赤色）をご使用下さい）。

〒020-0124 盛岡市厨川5-8-6 TEL:019-681-1904 E-mail: kanpai@utopia.ocn.ne.jp

ニューズレター第28号 平成29年7月11日発行

編集：認定特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて マネジメント・ガバナンス委員会